

(様式2)

## 「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書 (参加学生)

平成 25 年 11 月 7 日

所属： 教育文化学部国際言語文化課程 学年：一年次

氏名： 有明 侑子

研修先大学・機関名等 (国)： ビクトリア大学 (カナダ)

在籍身分： マンスリーイングリッシュプログラム

渡航年月日： 2013 年 9 月 2 日

帰国年月日： 2013 年 9 月 29 日

### ○研修先での学習内容等

イディオム表現、l と r、b と v の発音、仮定法、語彙、リスニング、日常会話での基本的な表現、疑問形など。

一つのテーマについて、ペアまたはグループでのディスカッション。

一・二分ほどのスピーチ。

### ○研修期間の生活面について

私のホームステイ先はレズビアンカップルのお家でした。お母さんが二人と、子供たちが二人、それから犬と猫とウサギがいました。一人のお母さんの話では、精子提供を受けて二人のお母さんが一人ずつ産んだそうです。調べてみると、カナダはとても同性愛に関する法律が進んでいて、居住条件抜きで同性婚を認めている唯一の国でした。また、そのカップルはお友達も多くて、家で長男のお誕生日パーティが開かれるときも、大勢のお客さんを迎えていました。この家族は、お母さんが二人いるということ以外には普通の家族と何の変わりもありませんでした。周囲の人々も嫌悪するようなそぶりも見せないし、オープンな雰囲気を感じられました。

また、ステイ先にはブラジルから留学に来ている年上の女性もいて、彼女と二人で街を歩くときには、ブラジルの同性婚や日本の同性婚について話したりもしました。ブラジルでは、ゲイのパレードが開かれることはあるのですが、カナダほどオープンではなく、しっかりした法律はないと言っていました。

また、研修期間の休みの日にはバンクーバーにも行きました。バンクーバーはゲイが多い町として知られていますが、実際に男性の二人が手をつないで歩いていたり、外で軽いキスをしていたりする光景を見ると、ちょっと驚いてしまいました。

しかし、やはり同性カップルを見て過剰に驚きを示しているのは日本人くらいだなと思いました。カナダの法律では、結婚について異性と同性の区別がなく、同性婚をするためだけにカナ

(様式2)

ダに越してくる人も多いようです。

今回の研修で同性愛や同性婚について考える機会がとて多かったですと感じています。

### ○研修期間全般にわたる感想

研修期間を通して驚いたことは、人々がやさしいことでした。日本はよくおもてなしや、礼儀正しいことなどが評価されますが、私は日本人よりもやさしい人が多いんじゃないかと思いました。それはビクトリアが観光地だからかもしれませんが、お店の店員さんは、店に入るとすぐに話しかけてきて、探しているものはないか、聞きたいことはないかなど聞いてきます。また、小さなことですがドアを開ける時は、基本的にドアを抑えて、開けて待っていてくれます。それから、道を聞いたりバスのことについて聞くと、気兼ねなく教えてくれることもあります。「Thank you」を言う機会が多くて、細かいことでもこういったことはすごくいいなと思いました。

### ○今後の勉強計画

ビクトリアでは、日本で英語を勉強してもわからないことや、なかなか体験することのできない経験をすることができました。この一カ月で学んだことを無駄にしないように、さらに自分の英語力を高められるように頑張りたいです。また、英語力以外にもたくさんの人々に会って、いろいろな話を聞いたので、今後の自分の人生にも役立てていきたいと思っています。

今回のプログラムでは、秋田大学以外にも大阪や東京の大学からきている人もいて、短い時間ではありましたが一緒に勉強することで、自分が想像していたよりも、とてもいい関係を築くことができました。今回の研修でできた友達とは、これからも連絡を取り合って、いつかみんなでも海外旅行に行こうと話しているのです、それが実現できるように勉強を頑張りたいです。また、海外の友達もできたので、また会ったらもっとたくさんのお話を話せるように、今後の学習へのモチベーションを高めていきたいです。



(様式 2)

